

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 復興支援-15

学校名・団体名	石巻市立中里小学校
HPアドレス	<a href="http://www.mediaship.ne.jp/~elsnaka/sb0/">http://www.mediaship.ne.jp/~elsnaka/sb0/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	大震災と向き合い、 地域や社会の人から学ぶ児童の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は、宮城県内で甚大な被害を受けた石巻市内にあり、校舎は床上浸水しなかったが、学校の周りの道路は水没した。幸い、児童、職員、地域には大きな被害がなかった。震災直後は、学校の校舎、体育館は避難所となり、多くの避難者が殺到した。東日本大震災から5年がたとうとする、今、震災後の石巻の復興を支えていく児童が、震災に向き合い、地域や社会の人とかかわりながら、授業を通して学ぶことで、「いのち」や自分たちの地域、自分の生き方を考えていくことが、求められている。</p>	

## 1, 実践内容

- (1) 対象学年 第1学年(44人), 第2学年(48人), 第3学年(50人), 第4学年(53人)  
第5学年(39人), 第6学年(43人), 特別支援(3人)計280人
- (2) 実践教科・領域 生活科, 総合的な学習の時間
- (3) 実践のねらい
  - ・児童が大震災について学ぶことで向き合い, 「いのち」や地域の復興について考える。
  - ・地域や社会の人から学ぶ学習を通して, 人とつながり, 学ぶことのすばらしさを経験する。
  - ・学んだことを通して, 人とのかかわり方や自分の生き方を考え, 自ら地域や社会にかかわって, 実践していこうとする意欲や実践力を育てる。

## 2, 各学年の取組

### (1) 3年生の取組



「日和山から被災地域を望む」



「日和山から被災地域を観察する」

### (2) 4年生の取組



「ヨシ原で鎌を使ってヨシを刈る」



「協力して束ねたヨシを運ぶ」

3年生は, 11月に石巻の大切な産業である復旧した笹かまぼこ工場見学を行い, 日和山から被災した地域の復興の様子を見学した。

#### <児童の感想>

- ・私はめったに行けない蒲鉾工場に行きました。そのあとの日和山では被災した景色を見ました。津波が来たときは大変だったと聞いたけど, またきれいな景色になって良かったです。
- ・バスで工業港を通りました。大きな船がたくさん沖にありました。製紙工場の近くでは, 津波の被害が大きかったことを聞いてびっくりしました。

4年生は, 6月にNPO法人「リアスの森」の方々からヨシのことやどんなことに使われているかの話を聞いた。そして, 1月に北上川の河口近くのヨシ原で, 昔から行われているヨシ刈りの体験学習を行った。

#### <児童の感想>

- ・私は, 初めてヨシ刈りをしました。ヨシを見たときは, 切るの簡単だと思っていました。が, 実際にやってみると固くて切づらかったです。でも, リアスの森の人に「ななめにして切るとやりやすいよ。」とアドバイスをもらってやったらすごく簡単に切れました。
- ・ヨシを運ぶときには, 二人ペアになって協力しました。二人ペアになっても大変なところもありました。ヨシを切ったり, 運んだりすることがこんなに大変なことだということが分かって, すごくうれしいです。

### (3) 5年生の取組



「石巻日日新聞社武内さんの話を聞く」



「話を聞いて感じたことを話し合う」

5年生は、石巻日日新聞社の武内さんに来ていただき、震災時に発行した本物の「かべ新聞」を見せていただいた。印刷機が津波で使えない中でも情報を集め、被災の状況を伝えようとする思いを感じ取ることができた。

#### <児童の感想>

- ・私は、今日、とても命の重みを感じました。今はこのように何事もなかったように暮らしているけど、震災のときは亡くなった人がたくさんいて、石巻から出て行ってしまった人もいたということはちゃんとおぼえていたほうが良いことだと思います。
- ・「復興は新しい町ができるだけじゃなく、被災した人が元気になることが復興だ」といっていたので、すごいなあと思いました。震災時、初めて出した本物のかべ新聞を見ることができて、とてもうれしかったです。

### (4) 6年生の取組



「仙台朝市での職場体験」



「NPO石川さんの震災への思いを聞く」

6年生は、10月に宮城県「志教育」の一環として、仙台朝市で職場体験学習を行った。2月には、NPO法人「IT'SNOT JUST MUD(どろだけじゃない)」の石川さんに来ていただき、震災時、ボランティア活動に取り組んだ思いや活動のこと、これからの石巻の復興について考えていることなどを話してもらった。

#### <児童の感想>

- ・朝市で職場体験をして、仕事をするということは、とても大変でいろいろなところが痛くなりました。だけど、お客さんが買ってくれたときの笑顔はうれしくて、私は「人を笑顔にする仕事」がしたいと思いました。
- ・石川さんの話を聞いて、特に大事だと思ったことが3つありました。「協力」「一生懸命」「無駄じゃない」です。この3つを大事にすれば、人を助けたり、人に親切にできたりするんだと思いました。

### 3. まとめ

同じ宮城県であっても震災は地域により被害の様子が違う。そして、一人一人の子どもたちの負った心の傷も様々である。今後も震災を忘れず、これからの生かしていくためには、「目に見える復興」を大切にするばかりではなく、授業を通してそれぞれの学校の児童の実態にあった「目に見えない心の復興」に地道に取り組んでいくことが重要である。そのためにも、児童が地域や社会の人から学ぶことを通して、自分たちの地域の理解を深め、児童の思いを生かしていく実践を今後も継続していきたいと考えている。